

学校コード F115310105248

注3

設置年度 令和 元年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2

長岡崇徳大学 看護学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人悠久崇徳学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

企画・連携課

職名・氏名

カチョウ ウチヤマ タカアキ
課長・内山 卓秋

電話番号

0258-46-6666

（夜間）

—

e-mail

kikaku@sutoku-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人悠久崇徳学園

(2) 大 学 名

長岡崇徳大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒940-2135
新潟県長岡市深沢町2278番地8

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タミヤ タカシ) 田宮 崇 (平成26年7月)	該当なし	
学 長	(モリ ヒロシ) 森 啓 (平成31年4月)	該当なし	
学 部 長	(ナカムラ エツコ) 中村 悦子 (平成31年4月)	該当なし	6
学科長等	(ナカムラ エツコ) 中村 悦子 (平成31年4月)	該当なし	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
- (例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	80 人	年次 該当なし	320 人		該当なし

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 — (—) [—]	人	人 80 (—) [—]	人	人 80 (—) [—]	人	人 80 (—) [—]	人	人 80 (—) [—]	人	0.78倍	—	該当なし
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	94 (—) [—]	— (—) [—]	93 (—) [—]	— (—) [—]	163 (—) [—]	— (—) [—]	164 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	88 (—) [—]	— (—) [—]	91 (—) [—]	— (—) [—]	161 (—) [—]	— (—) [—]	160 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	82 (—) [—]	— (—) [—]	87 (—) [—]	— (—) [—]	142 (—) [—]	— (—) [—]	139 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	43 (—) [—]	— (—) [—]	58 (—) [—]	— (—) [—]	74 (—) [—]	— (—) [—]	76 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		0.53		0.72		0.92		0.95				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	40 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	58 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	74 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	76 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	該当なし
2 年次			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	40 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	56 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	73 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
3 年次							－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	39 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
4 年次											
計			－ [ー] (ー)		40 [ー] (ー)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	0 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	43 人	3 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	3 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(3人)
令和2年度	98 人	3 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	1 人	0 人	他の教育機関への転学(1人)
			令和2年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
令和3年度	169 人	2 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	1 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和3年度	1 人	0 人	他の教育機関への転学(1人)
令和4年度	243 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		8 人		8 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{43} = \boxed{6.97} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{98} = \boxed{3.06} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{169} = 1.18\%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{243} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 育 科 目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1	1						
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1	1						
	キャリアデザインⅠ	1前	1		1						
	キャリアデザインⅡ	2前		1	1						
	キャリアデザインⅢ	4前		1	1						
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2	1						
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1	1	1					
	スタディスキルズ	1前	1		3						
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	-	14	31	2	5	1	0	0	0	17

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 育 科 目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	ベーシック英語	1前	2								1
	看護に活かすコミュニケーション英語	2前	2								1
	医療英語	3前		1							1
	英文講読	4前		1							1
	日本語表現Ⅰ	1前	1								1
	日本語表現Ⅱ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		0					1
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1	1						
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	4前		1	1						
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							3
	歴史と文化	2後		2		0					2
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		0	1				
	スタディスキルズ	1前	1			2					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	-	16	29	2	3	1	0	0	0	22

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
専門基礎科目	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	-	21	3	0	0	0	0	0	0	16
専門基礎科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1			
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		2	1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		2	3		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
専門基礎科目	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
専門基礎科目	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1			
	精神看護学実習	3後	2			3		1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(内分泌・代謝・腎)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅵ(婦人科、免疫・アレルギー・膠原病)	2後	1								2
	病理病態学	1後	1								1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
専門基礎科目	保健医療福祉行政論	3前	2								1
	公衆衛生学	2前	2								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(18科目)	-	24	2	0	0	0	0	0	0	17
専門基礎科目	看護学概論	1前	2			1					
	看護援助論	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2前	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	5		
	チーム医療論	1前	1			1		0			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
専門基礎科目	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1		1	1		
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			1		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			1		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			1		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1			1		
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2			1		
	母性看護学実習	3後	2			2			1		
専門基礎科目	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	精神看護学実習	3後	2			3			0	1	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開 論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織 の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				
	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	2		
	統合実践実習	4前	2			12	2	4	5		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	4	5		
	看護実践力演習	4後		1		1					
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア 看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計(63科目)	－	69	28	0	13	2	4	5	0	3
合計(112科目)		－	104	62	2	14	2	4	5	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:45単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	地域包括ケア論	1前	1			6		0	0		0
	地域・在宅看護学概論	2前	1			1					
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	地域・在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後	2			2					1
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		2			1		0
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術Ⅰ	2後		2		1			2		
	公衆衛生看護支援技術Ⅱ	3前		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開 論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織 の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				
	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1		1	1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			11	2	3	8		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			12	2	3	8		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア 看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		1		1	1		
	小計(64科目)	－	72	28	0	13	2	3	8	0	2
合計(114科目)		－	112	59	2	13	2	3	8	0	40
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目16単位、選択科目から14単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目24単位、専門科目として必修科目72単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」「災害看護活動論Ⅱ」から6単位以上を選択し、計102単位以上を修得する。従って、合計132単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:51単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(132単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計149単位以上を修得することとする。											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 育 科 目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ (呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ (内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ (造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ (脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

【令和２年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 育 科 目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ (呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ (内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ (造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ (脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護学概論	1前	1			1					1
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	4		
	チーム医療論	1前	1			1		1			
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0			
	精神看護学実習	3後	2			3		0			
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							
	公衆衛生看護活動展開 論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織 の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護学概論	1前	1			1					1
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	5		
	チーム医療論	1前	1			1		1			
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0	1		
	精神看護学実習	3後	2			3		0	1		
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							
	公衆衛生看護活動展開 論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織 の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護管理論	4前	1			1					3
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			12	2	3	6		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	3	6		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア 看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
小計(63科目)		－	69	28	0	13	2	3	6	0	3
合計(112科目)		－	104	62	2	14	2	3	6	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:45単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護管理論	4前	1			1					3
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			12	2	3	7		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	3	7		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア 看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
小計(63科目)		－	69	28	0	13	2	3	7	0	3
合計(112科目)		－	104	62	2	14	2	3	7	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限: 48 単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 育 科 目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ (呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ (内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ (造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ (脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護学概論	1前	1			1					1
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	5		
	チーム医療論	1前	1			1		0			
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1			1		
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			1		0	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			1		0	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			1		0	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0	1		1
	精神看護学実習	3後	2			3		0	1		
	地域包括ケア論	1前	1			1		0	1		
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開 論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織 の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 科目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1		1	1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			11	2	2	7		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			12	2	2	7		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		1					
	小計(63科目)	－	69	28	0	12	2	2	7	0	3
合計(112科目)		－	104	62	2	13	2	2	7	0	34
卒業要件及び履修方法											
基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。 【履修科目の登録上限:48単位(年間)】 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

・専任教員（講師）1名就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
・同上理由により、「精神看護援助論」「精神看護学実習」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
・専任教員（助教）1名就任の理由により、「看護援助論」「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」「看護実践力演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
・同上理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」に、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教4」に変更。
・同上理由により、「統合実践演習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「助教5」から「助教6」に変更。

【令和2年度】

・専任教員（助教）1名就任の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
・同上理由により、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員配置を「助教4」から「助教5」に変更。
・同上理由により、「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学実習」の専任教員配置を「助教0」から「助教1」に変更。
・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員配置を「助教6」から「助教7」に変更。
・保健師教育課程を履修する学生に対し選択科目の幅を広げるため、卒業要件及び履修方法において、履修科目の登録上限を「45単位(年間)」から「48単位(年間)」に変更。

【令和3年度】

・専任教員（教授）1名退職により、「老年看護援助論Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「認知症ケア論」の専任教員配置を「教授2」から「教授1」に、「統合実践実習」を「教授12」から「教授11」に、「看護課題研究」を「教授13」から「教授12」に変更。
・専任教員（講師）1名退職により、「チーム医療論」「老年看護援助論Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「地域包括ケア論」の専任教員配置を「講師1」から「講師0」に、「統合実践実習」「看護課題研究」を「講師3」から「講師2」に変更。
・令和2年度第4回AC教員審査において、専任教員が下記科目の資格有りと判定。
「老年看護援助論Ⅰ」（助教1名） 「助教0」から「助教1」に変更。
「地域包括ケア論」（助教1名） 「助教0」から「助教1」に変更。
「国際看護論」（教授1名） 「教授0」から「教授1」に変更。

【令和4年度】

・専任教員（教授）1名休職により、教員配置について「日本語Ⅳ」を「教授1」から「教授0」、「歴史と文化」を「教授1」から「教授0」、「国際ボランティア論」を「教授1」から「教授0」、「スタディスキルズ」を「教授3」から「教授2」に変更
・上記「日本語Ⅳ」「歴史と文化」「国際ボランティア論」の3科目については一般教養の選択科目であることから兼任教員を充当し、「スタディスキルズ」は必修科目であることから他の2名の教授を充当し、オムニバス形式での講義内容とした（R3年度第4回AC教員審査で資格有りと判定）
・専任教員（講師）1名新規採用により、「老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「認知症ケア論」について「講師0」から「講師1」に、「統合実践実習」「看護課題研究」について「講師2」から「講師3」に変更（R3年度第2回AC教員審査で資格有りと判定）
・専任教員（助教）1名新規採用により、「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」「母性看護学実習Ⅰ」について「助教0」から「助教1」に、「統合実践実習」「看護課題研究」について「助教7」から「助教8」に変更（R3年度第3回AC教員審査で資格有りと判定）
・専任教員（教授）1名着任により、「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護活動論Ⅰ」について「教授1」から「教授2」に変更
・令和3年度第2回AC教員審査において、現専任教員が下記科目の資格有りと判定
「認知症ケア論」（助教1名） 「助教0」から「助教1」に変更。

◎以下の事項については、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、本学が令和3年4月19日付 悠崇大第933号で学則（教育課程）の変更を申請し、令和3年9月22日付 3文科高第682号で保健師助産師看護師法施行令第13条第1項の規定により文部科学大臣より承認を受けた内容となります。

〈基礎教育科目〉
・英語科目は内容を見直し、大学4年間に渡り継続的に学習可能なカリキュラム体制とするため、科目数を2科目から4科目とし、各学年に配当（1・2年次は必修）。また科目名を「ベーシック英語」「看護に活かすコミュニケーション英語」「医療英語」「英文講読」に変更。
・日本語科目については、従来の「日本語Ⅲ」「日本語Ⅳ」の内容が他の科目と重複していたため削除とし、日本語科目の科目数を4科目から2科目へ変更。但し、令和3年度入学生以前については、従来の「日本語Ⅳ」を開講し履修可能な体制とした。
・日本語科目は、講義内容を反映させた解りやすい科目名として、「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」に変更
・科目名「キャリアデザイン」は従来のⅠとⅡの内容を一つにまとめ、新たな「キャリアデザインⅠ」とし、1年次前期に配当
・上記理由により、従来の「キャリアデザインⅢ」は内容を変更せず、新たな「キャリアデザインⅡ」に名称変更
〈専門基礎科目〉
・「病理病態学」/臨床判断能力の基盤強化、及び疾病治療論につながるような配当年次とするため、選択科目から必修科目に変更。また、配当年次を「4後」から「1後」に変更。
・同上理由により、疾病治療論の領域を追加するため、従来の5科目（Ⅰ～Ⅴ）から1科目1単位増やし、「疾病治療論Ⅰ～Ⅵ」に変更
・「公衆衛生学」/指定規則の改正により内容の充実を図るため、1単位から2単位に変更
・「保健医療福祉行政論」/看護の基本及び生涯発達の基本事項履修後の配当が適当との判断から、配当年次を「1後」から「3前」に変更
〈専門科目〉
・「看護学概論」/他の専門科目の基盤となる科目であることから、内容の充実を図るため、1単位から2単位に変更
・「看護援助論」/難易度的に「看護学概論」履修後の配当が適当と判断したため、配当年次を「1前」から「1後」に変更
・「基礎看護技術演習Ⅲ」/各専門領域の配当時期に合わせ、配当年次を「2後」から「2前」に変更
・「地域包括ケア論」/内容の充実を図るため、教授方法について、共同方式からオムニバス方式に変更とし、教員配置を「教授6」とした
・「公衆衛生看護学概論」/全学生の履修が必須との判断から、単位数「選択2単位」から「必修2単位」に変更
・保健師養成に係る指定規則改正を受け、「公衆衛生看護支援技術」の単位数を増やす必要があることから、新たに「公衆衛生看護支援技術Ⅱ」を追加し、3年次前期に配当
〈その他〉
・卒業要件及び履修方法について、上述の内容に合わせた単位数に変更し、履修科目の登録上限については従来の48単位から51単位に変更以上

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
70 科目	40 科目	2 科目	112 科目	74 科目 [+4]	38 科目 [Δ2]	2 科目 [0]	114 科目 [+2]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	日本語Ⅲ	1	1後	一般	選択	講義内容は他の科目で履修可、代替無
2	日本語Ⅳ	1	4前	一般	選択	講義内容は他の科目で履修可、代替有
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【大学の所見】「日本語Ⅲ」「日本語Ⅳ」の内容（発表やプレゼンテーション）は他の科目（例「スタディスキルズ」「看護学研究法」「看護課題研究」など）でも履修可能と判断した。但し、廃止に関しては令和4年度入学生以降に適用としており、令和3年度入学生以前については従前の学則を適用するため、「日本語Ⅳ」については開講し、履修可能としている（「日本語Ⅲ」は単位未習得者無しのため終了）。

【学生への周知方法】年度初めの学生オリエンテーションにおいて、各学年ごとに周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{112} = \boxed{1.78}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容						備考				
(1)校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用	計		借用地/校舎敷地：借用面積21,553.20㎡、 期間25年 グラウンド：借用面積 8,007㎡、期間25年 運動場用地：校舎敷地 と別地 (徒歩5分)				
	校 舎 敷 地	20,921.80 ㎡	819.34 ㎡		0 ㎡	21,741.14 ㎡						
	運動場用地	8,007.00 ㎡	0 ㎡		0 ㎡	8,007.00 ㎡						
	小 計	28,928.80 ㎡	819.34 ㎡		0 ㎡	29,748.14 ㎡						
	そ の 他	0 ㎡	6,422.22 ㎡		0 ㎡	6,422.22 ㎡						
	合 計	28,928.80 ㎡	7,241.56 ㎡		0 ㎡	36,170.36 ㎡						
(2)校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用	計		借用面積 21,553.20㎡ 期間25年				
		10,071.76 ㎡ (8,561.90 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)		0 ㎡ (0 ㎡)	10,071.76 ㎡ (8,561.90 ㎡)						
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室		情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
		4 室	15室	5 室		1 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)					
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			令和2年4月 専任教員(助教)1名を 新規採用のため(2)				
		看護学部 看護学科			22 21 室							
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点					
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕									
		看護学部	26,400 [1,200] (28,859 [636])	92 [10] (58 [0])					6 [6] (2 [2])	750 (127)	3,699 (3,699)	25 (25)
		計	26,400 [1,200] (28,859 [636])	92 [10] (58 [0])					6 [6] (2 [2])	750 (127)	3,699 (3,699)	25 (25)
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
		740.31㎡		102		40,000						
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
		587.42㎡		該当なし		該当なし						
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教員研究費等見直しの ため(元) 教員研究費等見直しの ため(3) 図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費を含む			
		教員1人当り研究費等	300 450千円	300 450千円	図書購入費	20,000千円	1,000千円	1,000千円				
		共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	150,000千円	0千円	0千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	千円	千円					
	学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金収入、補助金収入、雑収入等									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	長 岡 崇 徳 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学科 のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
看護学部	4	80	0	320	学士 (看護学)	0.78	0.95	—	平成31	—	
看護学科	4	80	0	320	学士 (看護学)	0.78	0.95	—	平成31	新潟県長岡市深 沢町2278番地8	
大学全体	4	80	0	320	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	・ 設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項	・ 遵守事項を踏まえ、4年制大学にふさわしい教育研究活動を実践すべく、教授会をはじめ、学内の各専門委員会がPDCAサイクルに沿って年間計画と目標を定め活動している。また、必要に応じて委員会相互の連携を図り、教育研究水準の更なる向上に努めている。	履行済	
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和元年)	・ 入学定員未充足の改善に努めること。 (看護学部看護学科)	指摘事項 (改善)	・ 広報活動に力を入れ、前年度より充足率は改善したものの、未だ充足には至っていない為、引き続き改善に努める。	履行中	・ マスメディアを利用して、オープンキャンパス参加者の拡大と大学の認知度を高める ・ 昨年度の高校訪問を分析し、訪問時期や回数などを再検討する ・ ホームページのリニューアルを実施しイメージアップを図る ・ 出前授業を実施し、看護大学としての認知度を高める ・ 高校教員向けの説明会を実施し、受験生に対しての認知度を高める
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	・ 教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 (看護学部看護学科)		・ アドバイザー制度を活用し、学生生活の不安を和らげ、充実した学生生活を送ることができるよう努めている ・ 学則（教育課程）の変更：科目内容の追加や履修時期の見直し等により、学生が効率的に科目を学ぶことができるように変更している ・ 通常のオープンキャンパス（以下OC）に加え、高大連携事業を立ち上げ、「学びの看護体験」を実施した。単なる看護体験にとどまらず、チーム医療についてのグループワークを通じ、大学と専門学校との学びの違いを理解してもらう企画を実施した。		・ データ分析に基づき、ターゲット（高校生、保護者、高校教員、地域）と目的に応じた効果的な広報活動を展開し、OC参加者を増やすことにより志願者数の増加を図る。 ・ これまでの入学実績の分析に基づいた戦略的な高校訪問活動等を実施し、総合型選抜、学校推薦型選抜による出願者を増加させる。 ・ 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。

		指摘事項 (改善)	・大学と地域との連携を積極的に展開している（以下①～④） ①小中高向け出前授業の実施、R3年度申込数19校 ②「子育て支援事業」長岡市とも連携を図り、コロナ禍での出産・育児に不安をもつ市民向けの「パパママサークル」の実施。R3年度受入数77組 ③長岡市民向けの公開講座の実施。長岡市主催の講座に参加（継続中） ④中越地域の看護職向けの講座実施、R3年度受講者延べ人数約100名 ・ホームページ（以下HP）の更新等 在学生による動画作成や、図書館のページは文献検索の内容を強化するなどのリニューアルを実施した。 ・広報コンサルと月1回のWeb会議を開催し、Web広告の成果報告を受けるとともにHPアクセス数、動画視聴数、SNSの利用状況などのデータを踏まえて修正・改善点などを検討し、OCのDMの内容構成、在学生の入試体験談の企画などに反映させた。 また、高校生からの大学案内や募集要項請求データを分析してもらい前年度に比べて減少した地域や個別の高校については重点的に訪問している。	履行中	
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
【学則（教育課程）】【授業科目の概要】 （授業科目） 第25条 授業科目の種類および単位数は別表1並びに別表2のとおりとする。 【教育課程等の概要】 ・卒業要件及び履修方法 履修科目の登録上限：45単位（年間） 【設置の趣旨等を記載した書類】 ク 入学者選抜の概要 3 選抜方法 1) 実施方法及び定員割合 特別選抜試験と一般選抜試験の募集定員の割合については、特別選抜試験の募集定員を40人、一般選抜試験及び大学入試センター試験による募集定員を40人とする。 3) 一般選抜試験（前期・後期） 一般選抜試験は、学力検査として国語、英語を必修科目とし、数学又は生物から1科目を選択する方式とし、入学志願者の学習能力を合理的に判定する。 4) 大学入試センター試験（前期・後期） 大学入試センター試験は、国語及び英語Ⅰを必修科目として、理科、地歴又は公民、数学から1科目を選択のうえ、計3科目が一定の学力水準に達しているか否かの判定に用いることとする。入学者の受入れ方針に基づく、「自ら進んで学ぼうとする人」等については、面接により適切に判断することとしている。 コ 実習の具体的計画 「成人看護学実習」「老年看護学実習」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」「在宅看護学実習」 （令和3年8月～令和4年1月）病院及び施設での臨地実習	別表1及び別表2について、授業科目の変更を行った。 ※保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令（令和2年文部科学省・厚生労働省令第3号）の施行に伴う教育課程の変更 このことに伴い、該当授業科目の概要を変更した。 （R3.9.22 3文科高第682号にて文部科学大臣より承認） 保健師教育課程を履修する学生の幅広い知識の獲得を目的として、選択科目の幅を広げるため履修規程を改正し、履修科目の登録上限を45単位から48単位へ変更することとした。今後の課題は、1年次・2年次の履修が集中しないように学生へ指導する。 なお新たに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正による学則（教育課程）変更が行われ、令和4年度入学生より登録上限を51単位とした。 ク 入学者選抜の概要 3 選抜方法 1) 実施方法及び定員割合 『令和3年度大学入学者選抜実施要項』（令和2年6月19日付け 2文科高第281号文部科学省高等教育局長通知）の第8・募集定員において、「学校推薦型選抜の募集人員が入学定員の5割を超えない範囲において各大学が定める」との規定に基づき、学校推薦型選抜の定員を35人とした。また、社会人の受験が容易になるように社会人特別選抜枠を新設した。 3)、4) 本学のアドミッションポリシーを踏襲しつつ、より多様な能力を持った学生の確保を目的として、一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜において、英語を必修科目から選択科目に変更することとした。これにより、学生の能力・適性を多面的に判定することが可能で、英語については、入学後の教育で充た可能と判断した。 また、大学入学共通テスト利用選抜の学生負担軽減のため、面接を廃止することとした。なお、本学アドミッションポリシーの「自ら進んで学ぼうとする人」の判断については、出願書類の一つである『志望理由書』において確認可能と判断した。 新型コロナウイルス感染症が終息していないことから、一部の実習予定病院の実習生受入れが困難となり、下記のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染対策委員会の総合判断により、病院実習に代えて、演習及び学内実習として実施した。 ○参考資料：『大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン』（令和2年6月5日付 2文科高第238号文部科学省高等教育局長通知）4による学修機会の確保等・(3)実技・実習の取扱いを参考とした。

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

「長岡崇徳大学FD委員会規程」（平成31年4月1日制定）

【別添資料1】

令和元年度は教員6名、令和2年度は教員7名、令和3年度は教員7名、令和4年度は教員7名及び事務1名が担当している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和3年度開催：原則毎月1回、必要に応じて臨時開催とし、年間計11回開催した。

開催日（参加数）：4/15（7名） 4/28（7名） 5/17（7名） 6/17（7名） 7/15（8名） 9/10（5名）
11/5（5名） 12/3（7名） 1/21（6名） 3/15（7名） 4/1（6名） 令和3年度まとめ

なお、6/17の委員会に学長がオブザーバーで出席した。また、7月に入職の教員1名が新たに委員として出席している。

c 委員会の審議事項等

本学のFD委員会においては以下の事項を所掌している。

- (1) 教育研究活動改善の方策に関すること
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関すること
- (3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関すること
- (4) FDに関する教員への各種コンサルティングに関すること
- (5) その他FDに関連すること

また、令和2年度に「シミュレーション教育委員会」を吸収し、それ以降はシミュレーション教育に関する内容を組み込んだ形で活動している。

② 実施状況

a 実施内容

1. シミュレーション教育研修
2. 授業評価に関する研修
3. 授業評価アンケートの実施
4. 授業のピアレビュー評価
5. 研究方法に関する研修及び研究報告
6. FD委員会活動に関する教員アンケートの実施

b 実施方法

1. 昨年度に引き続き、東京医科大学医学部看護学科・阿部幸恵氏に講師を依頼し、シミュレーション教育研修を行い、各領域でのシミュレーション教育実施を目指す。「学生のレディネスを考慮したシナリオ作成と実施」のテーマで90分の講演をオンライン形式で実施した。
2. 「大学における授業評価の必要性と意義を考える」のテーマで講演（オンライン形式）を依頼した。授業評価に関する講演会は、新潟大学経営戦略本部教育戦略統括室 齋藤有吾准教授に依頼して行った（12/23実施）
3. 前期・後期で授業評価アンケートを実施。講義については教務システムで入力、演習・実習については用紙に記入してアンケートを行った。
4. 公開授業・見学実施要領に基づき、学内教員が担当する科目について、授業見学・評価（ピアレビュー）を実施した。
5. 学内教員からの研究報告を年2回実施した。
6. 3月中旬にFD委員会活動に関する学内教員へのアンケートを実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 各専門領域のシミュレーション教育実施を目指す目的で、令和3年度は本学で作成した基礎看護学・小児看護学領域の資料をもとに実践的な内容が話された（8/26実施）。
 - ①基礎看護技術演習Ⅱの「食事介助の技術」をタスクトレーニングで行うシナリオ
 - ②小児看護援助論Ⅱをシチュエーションベースドトレーニングで行うシナリオを提示し、講師からのコメントを受けることにより、具体的なシナリオ作成について理解を深めることができた。教員の参加率は約100%であった。
2. 教育評価は教育活動を評価し改善するものであり、「授業評価」「学習評価」の2つのタイプがある。これらの位置づけと言葉の意味、意義が明確になり基本的な知識が得られた。学生の到達状況を評価する学習評価が重要であり、授業評価が教員評価にならないための工夫が必要であることが理解できた。教員の参加率は約100%であった。
3. 後期では1年生の教務システムの入力回答が20～30%と少なかった。2年生も前期より教務システムへの入力回答が少ない傾向にある。実習科目はほぼ全員が回答していた。
4. 後期は領域別実習が開始されたことから、授業見学をする時間が取れなかった。今後は公開授業の期間を延長し、見学できる機会を多くする必要がある。
 - ・実施時期：令和3年4月～令和4年2月
 - ・見学した教員：7名

5. 学内教員による研究報告を5月、7月の2回実施した。令和2年度以降は教員の参加率を上げるため教授会と同日に実施している。令和3年度の出席率は80%であった。

6. 3月中旬にFD委員会活動に関する教員へのアンケートを実施し、回答率は40.7%であった。シミュレーション教育、及び授業評価の講演会は教育活動に役に立ったという回答が多く、次年度も継続してほしいという希望があった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

シミュレーション教育については、阿部氏の2年に渡る研修により、各専門領域がシミュレーション教育に取組み、推進が図れている。今後は各領域で行われているシミュレーション教育内容の共有と評価を行い、教育方法の改善につなげていくことが必要である。また、演習や実習において実施したシミュレーション教育について、実践報告や研究としてまとめていくことが課題である。

教育評価における「授業評価」と「学習評価」の位置づけや意味・意義について共通理解が理解できたと考える。今後は演習・実習の評価方法を検討することが必要であるが、次年度は評価の具体的な方法について講演を依頼する計画である。また、現在実施している授業評価アンケート、ピアレビューについてどう評価に活用していくかを検討する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業評価アンケートを全学生・全科目対象に実施している。講義については教務システムで入力し、一部科目については、回収率アップのため、教員が講義の最終回で回答する時間を確保する等の配慮を行っている。また、演習・実習については用紙記入の方法で実施した。実施時期：年2回（前・後期）

b 教員や学生への公開状況、方法等

回答内容を数値化して大学ホームページ上で公開している。自由記載部分の公開や、授業評価アンケート結果が授業改善にどのように活かされているかの検証が必要と考える。また、アンケート内の自由記載部分について、学生から今後の授業改善に役立つような回答を得るための工夫や説明が必要と考える。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

自己点検・評価に関し審議するため、学長諮問委員会として「自己点検・評価委員会」を設置している。本学は設置認可後のACの段階にあるが、同委員会が主導して各委員会活動、及び各教員の教育・研究活動についての点検評価を行っている。それぞれの委員会活動においては、項目ごとに計画・実行・評価・改善へと続くPDCAサイクル手法を取り入れ活動し、年度ごとに「自己点検・評価委員会」において点検評価を実施している。なお、同委員会の構成員はすべての委員会委員長としている。また、私立学校法改正による長中期目標・計画策定を契機に、今後は従来の自己点検評価に加え、業務運営・財務面を含めた自己点検評価を行うこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

年度末に各委員会から当該年度の活動報告書の提出を受け、自己点検・評価委員会で、必要な内容が網羅されているか点検し、必要に応じて検討・修正を求め、そのうえでPDCAサイクルシート（学内版）を作成している。同内容を反映させた令和2年度活動実績報告書を令和3年6月に大学ホームページに公開した。また、令和3年度の活動実績をまとめたものについては令和4年6月を目途に公表することとしている。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和4年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

完成年度以降の早い時期に評価機関の評価を受けるべく、認証機関の情報収集を進めつつ、今後学内で検討を進める。また、令和4年度は完成年度となることから、中間評価についても具体的な計画を立てる予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○長岡崇徳大学 FD委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、長岡崇徳大学（以下「本学」という。）教授会規程第7条第7号の規定に基づき、本学にFD（Faculty Development）（以下「FD」という。）委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）をもって構成する。

- (1) 各専門領域から選出された教員 各1名
- (2) 教務・学生課長
- 2 委員会に委員長を置き、学長が指名した者をもって充てる。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた時は、委員を補うことができる。この場合の任期は、前任者の残存期間とする

(審議事項)

第4条 本委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事
- (3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事
- (4) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事
- (5) その他FDに関連する事

(議事)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって議事を決する。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 委員会は、必要に応じ委員以外のものを委員会に出席させ、意見を聞くことができる。

(実施事項の運用)

第6条 第4条の審議事項で決定した事項に関しては、教務委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。

(事務)

第7条 この委員会の事務は、教務・学生課において処理する。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、教授会の議決を経て、学長が決定する。

附則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。